

年度	平成16～18年度
----	-----------

基本目的 4 多くの人が働ける雇用の場が増える

行動目標 4-2 農林水産業が活性化する

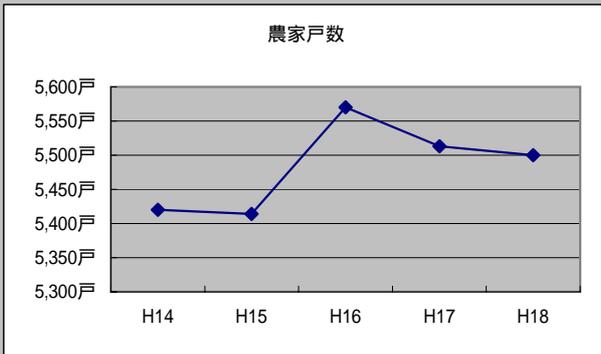
(所管課名 商工農水部農水事業課
農業センター)

任務 農業の担い手を維持する。
市民へ農業情報を提供する。

任務の成果・活動指標の推移

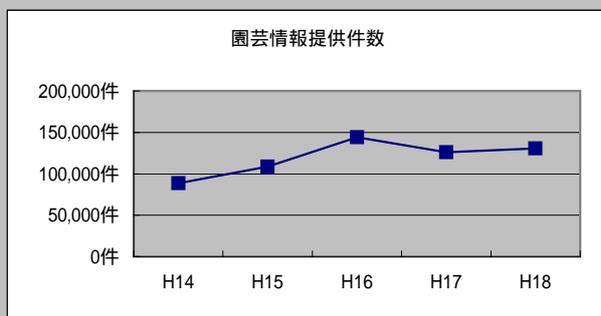
農家戸数

H14実績	5,420戸
H15実績	5,414戸
H16実績	(四) 5,353戸 (楠) 217戸
H17実績	5,513戸
H18目標	5,500戸



園芸情報提供件数

H14実績	88,549件
H15実績	108,729件
H16実績	144,204件
H17実績	126,102件
H18目標	130,700件



指標の説明

農家戸数としては、10a以上の農業従事者を、農業情報提供件数については、農業センターホームページへのアクセス件数に園芸相談等の件数を加えたものを指標とした。

任務に対する評価

これまでの取組と成果、手段の妥当性

平成16～17年度

平成16年9月より、畑、ビニールハウス、果樹の三部門において、新規就農者技術研修を実施した。果樹の部は第1期生5名が受講し、通年の果樹栽培を研修した。平成17年9月から第2期生7名が受講中である。ビニールハウス、畑の部は平成18年3月まで第1期生10名の受講生を受入れ、野菜、観葉植物栽培の指導を行なった。

成果

受講者の内2名がビニールハウスを建設し、本格的営農を開始した。また他の受講生も果樹の新植や、所有地、借地での野菜作りをはじめた。

また、増加する市民の園芸への関心に応えるため、市民園芸講座の開催や、ホームページの内容の充実に努めた。

平成18年度

4月よりビニールハウス、畑の部8名が受講している。果樹の部については5名の新規研修生を募集し、9月から研修に入る予定である。

また、昨年度受講を終了した研修生については、定期的に現地指導を実施する。

市民園芸講座、ホームページについては引き続き充実に図る。

これからの課題、施策等展開の方向性

農業従事者の高齢化・減少、遊休農地の増加の危惧など、農業を取り巻く状況は、依然として厳しい状況にある。このような状況下、農業センターとしては、ビギナーズ研修、市民園芸教室、市民菜園事業さらに農業に関する情報提供を継続実施し、農業の担い手の育成・確保に取り組む。